

2016年度アフリカビジネス実証事業実施報告書（要旨）

エチオピア「切花包装資材等」

第1章 事業概要

1.1 目的

- (1) 現地にスリーブ生産工場建設の可能性を調査する駐在員事務所の設立
- (2) 生産スリーブのエチオピア国内販売及び欧州、米国への輸出
- (3) ゴム結束用資材（花用）、輸出用梱包材料等の調達供給
- (4) 切花を航空便に替えて船便輸送による輸出ルートの確立

1.2 背景

2015年度実証事業として、同国から日本への切花輸入の実現を図りました。この事業展開の中で、同国では花束加工が農園でなされ、スリーブ（花用袋）は全量輸入に頼っていること、また、ゴム結束用資材、梱包材料等も輸入品であり、調達品質・納期等で課題を抱えていることが明らかとなりました。

当社は、切花の包装材料総合メーカーであり、当社の技術・経験を駆使することによって、同国の切花産業の向上に貢献することができます。

エチオピアにとって、切花は輸出産業の大きな柱であり、その殆どは欧州へ輸出されていますが、昨今日本を始めとするアジア市場への展開が注目されています。切花輸出の拡大を図るには花の品質向上が必須であり、その為には花束の包装・梱包材料の改善も大きな要素です。これら包装・梱包材料は全量輸入対応されており、当社が現地にてスリーブ生産、梱包材料供給を行うことによって、同国の輸出基盤整備を図ることができます。

又、切花の輸送については、現状は航空輸送が主流であるが船便輸送にシフトすることで輸送費の削減が可能となり利益率が高まります。これにより、従業員への賃金増加など好循環が期待でき同国の経済発展にも貢献できます。

1.3 自社について

コアビジネスはフラワースリーブ（花の袋）の製造と花の自動包装機の輸入販売です。7年前から生花店をはじめ、ブーケメーカーとしても経ち始めています。現在は工場はMPS（オランダに本部があります：本部環境負荷低減による切花の加工に対する認証制度）の認定を受けています。

更に本年8月以降工場の拡大を行い、国内大手のH. C.（ホームセンター）、SMTS（スーパーマーケットトレードショー）に対してブーケの供給、S社の加工を受けて同じく量販店に対して現在、直接販売を行なっています。

1.4 海外事業戦略全体におけるアフリカ事業の位置づけ

エチオピアにとって、切花は輸出産業の大きな柱であり、その殆どは欧州へ輸出されていますが、昨今日本を始めとするアジア市場への展開が注目されています。

切花輸出の拡大を図るには花の品質向上が必須であり、その為には花束の包装・梱包材料の改善も大きな要素であります。

これら包装・梱包材料は全量輸入対応されており、当社が現地にてスリーブ生産、梱包材料供給を行うことによって、同国の輸出基盤整備が図れます。

1.5 ビジネスパートナーについて

現地ビジネスパートナー名

生産農家：E社、H社、Y社他、エチオピア園芸協会

切花の品質向上：現地（ケニア）パートナーであるF社

1.6 該当分野・製品・サービスについて

- (1) エチオピア駐在事務所設置
- (2) 切花包装資材生産工場建設の調査
- (3) 切花の船便による大量輸送の検証

現地で生産される切花は、農園にて花束加工にされ主にヨーロッパへ輸出されている。この加工時に、花束の保護及び最終販売者のロゴ表示を目的として使用されているスリーブ、ゴム結束用資材（花用）調達供給先の調査及び生産工場建設を調査する。

第2章 実証項目とスケジュール

2.1 実証項目（実証項目ごとの説明）

(1) 【需要調査と販売（輸出）戦略の構築】

スリーブ現地生産の需要調査を通じて課題を抽出、解決方法を見出し、販売（輸出）戦略を構築。

(2) 【原料調達先の調査・発掘、スリーブ現地生産体制の構築】

原料調達先の調査を通じ、調達（物流含む）にかかる課題を抽出。調達先を発掘し、スリーブの現地生産体制を構築。

(3) 【工場建設にかかる課題抽出、解決策の構築】

工場建設にかかる手続き（法務・労務・税務）やインフラ整備状況の調査を通じて課題を明らかにし、円滑な工場設立方法を見出す。

(4) 【駐在員事務所の開設にかかる課題抽出、解決策の構築】

駐在員事務所開設にかかる手続き（法務・労務・税務）を通じて制度面と運用面の乖離を抽出、解決策を見出す。

(5) 【切花の船便輸送にかかる課題抽出、解決策の構築】

切花の船便輸送にかかる課題（品質管理、物流体制等）を抽出し、解決策を見出す。

2.2 事業実施スケジュール

事業期間 (実証中) <ul style="list-style-type: none"> ●戦略立案 ●戦略検証 ●拠点設立準備 ●販路開拓 ●市場参入等 <例> <ul style="list-style-type: none"> ・現地出張 ・招聘 ・法、労、税務相談 ・分析検査 ・モニタリング調査 ・拠点設立 等 	7月	・第1回現地調査への準備
	8月	・第1回現地調査 現地での需要、製品使用調査実施 ・スリーブ原料フィルム調達先調査（欧州、アジア）
	9月	・生産販売計画（原案）作成 ・生産、調達製品の調査
	10月	・現地農園に当社社員の自主派遣 ・切花の船便輸送による品質調査実施
	11月	・第2回現地調査 工場建設のためのインフラ調査 流状況調査 現地への進出条件調査（優遇税制、労務、その他）
	12月	・第一次 Feasible Study の実施
	1月	・第3回現地調査 駐在員事務所開設準備
	2月	・報告書の作成
事業終了、報告会開催、報告書まとめ		

第3章 実証項目ごとの検証方法と結果と考察（課題とそれらをクリアするための対策や提案）

3.1 実証項目の結果まとめ（一覧表）

実証項目	結果	課題
実証項目1 需要調査と販売 (輸出)戦略の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・既取引先から生産実績，使用量を確認。推定需要は1.4億枚以上/年を期待。 ・外資系農場はほぼ全数にスリーブを使用、現地系の農場の使用量は生産数の約30%と想定。 ・エチオピア国内の正確な使用量の把握には至らず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者団体，政府機関の集計数字にばらつきがあるので、改めて統計数字・各地農園の情報提供を依頼。 ・各地農園への訪問、聞き取り調査の必要有り。
実証項目2 原料調達先の調査・発掘、スリーブ現地生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の調達先以外の新規発掘には至らず。 ・エチオピア国内の問題で原材料調達に日本法人は相当な苦勞をしている情報を入手。 ・過去に包装材料の工場設立を計画し撤退 	<ul style="list-style-type: none"> ・原料の調達先については今後も情報の入手を行う。 ・過去に包装材の工場建設を計画しながら撤退した外資系企業の把握と撤退事由の調査が必要。

	<p>した外資企業が複数ある事を確認。</p> <p>*三菱商事エチオピアからの情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内消費材の輸入は、外貨規制が厳しく国内需要見合いの輸入ができていない。 ・慢性的な LC 開設遅れ(中央銀行)。 ・輸入申請許可手続が煩雑・長時間を要す(貿易省)。 ・輸入手続きで突発的な制度・ルール変更(貿易省)。 ・非効率な通関手続き ・突然のルール変更(国営独占運輸会社)。 <p>輸出入手続き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジブチ-ADD の陸送コストは、上海からジブチへの海上運賃より高額。 ・ジブチ-ADD 間の鉄道は線路敷設完了、運転開始未了。 ・MOJO のドライポートは未だ整備途上。 <p>※隣接の MOJO 駅にはコンテナ専用の荷役設備が完成。</p>	
<p>実証項目 3</p> <p>現地駐在員事務所の開設にかかる課題抽出、解決策の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JETRO アディスアベバ関所長より現地事務所の机が使用可能であるとの申し出を頂く。当分の間の現地短期滞在に使用。 ・JETRO 事務所上階にレンタルオフィスが開業。駐在員事務所の開設に使用可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐在員事務所開設のエチオピア政府窓口が EIC ではなく貿易省である事が判明。事務所開設に向けて貿易省との交渉・情報収集が必要となる。
<p>実証項目 4</p> <p>工場建設にかかる課題抽出、解決策の構築</p>	<p>・工業団地視察：</p> <p>BOLE LEMI1 工業団地は 7 月視察時より従業員が増加。それに伴い各種施設の他、暴動発生後に警備員の詰所も新設するも正面ゲートや壁など一部施設は完成に至らない部分もあり。</p> <p>KILLINTO 工業団地予定地は未だ放牧地や耕作地が広がっている状態。政府は 2018 年入居開始を目指しているが、訪問した日本企業からは数年はかかるとの見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EIC にスリーブ生産事業の協力依頼に向かうが、国内規制を理由に外資のプラスチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居する工業団地の選定は、プラスチックの加工印刷に必要な排気・排水設備の有無の確認が必要 ・工場稼動に向けての建設計画、従業員の雇用、教育の計画立案。

	<p>ック加工・印刷は認めない旨を明言。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月にEIC長官に要望を行うも長官から改めて明言される形となる。 ・その後2月にJETRO 関所長，JICA 栗田氏始め現地の皆様のご尽力により、EIC長官よりインパックのスリーブ事業を認める内容の発言を頂く。 	
<p>実証項目5 切花の船輸送にかかる課題抽出、解決策の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・船輸送の情報収集は行えず。具体的進展なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・船輸送のテストに必要な現地農園の協力。 ・取引先農園の船輸送に対する理解を得る為の活動。

3.2 実証項目1 需要調査と販売（輸出）戦略の構築

(1) 検証方法、活動内容

- ・Ethiopian Horticulture Producer Exporters Association (EHPEA) , Ethiopian Horticulture Development Agency (EHDA)に直近の生産量を確認。
- ・取引先バラ農園に年間の生産本数，スリーブの使用枚数の聞き取り。

(2) 結果

- ・予想される年間需要は1.4億枚以上/年。H社の2015年度生産本数10億本→1億枚（2017年度目標14億本）が最大のターゲットとなる。
- ・それ以外の中小規模（20ha前後）の農園はスリーブの使用比率は30%を予測。

(3) 考察

- ・スリーブの生産量に対する使用比率は外資系の農園が多く、エチオピア系の農園は少ない。スリーブの用途は主に欧州，中東などの輸出品に使用される。
- ・各機関の統計数に大きな差があり、実際の需要を掴み切れなかった。取引先以外の主要な農園に訪問して生産数とスリーブの使用量（とサンプルの取得）を行う必要がある。

3.3 実証項目2 原料調達先の調査・発掘、スリーブ現地生産体制の構築

(1) 検証方法、活動内容

- ・エチオピアで活動している日系企業への聞き取り及び取引先農園での情報の取得。

(2) 結果

- ・現在の中国原材料メーカー以外の調達先の調査，発掘には至らず。
- ・原材料の輸入はエチオピア国内の諸問題（外貨規制・非効率な手続き・突然のルール変更・長時間を要する手続き・その他）により、進出した日本企業（再輸出企業）にも原料入手に遅れ

が生じているとの情報を確認。

- ・現地農園の情報では、切花の包装材料の工場建設を計画した国内企業が5社程度あったが、4社が計画段階で撤退、残る1社（ケニアと聞いたものの未確認）は計画を継続中との情報。撤退の原因は原料調達が安定していなかった事（未確認）。
- ・ジブチーアディスアベバ間の鉄道は開通したものの営業運転は行われず。
- ・モジョのドライポートは整備途上、届いた貨物が行方不明になる事が度々有る。

(3) 考察

- ・原料の調達、輸送は大きな困難が伴うものと思われる。
- ・現地でのスリーブ生産体制の構築には、上記リスクを勘案して慎重な計画作りをする必要がある。

3.4 実証項目3 駐在員事務所の開設にかかる課題抽出、解決策の構築

(1) 検証方法、活動内容

- ・JETRO アディスアベバ事務所、JICA エチオピア事務所、現地旅行会社エルミツアー、現地日本法人にて事務所開設、現地滞在の情報を取得。

(2) 結果

- ・駐在員事務所開設の所管はEICではなく貿易省と確認。
- ・JETRO アディスアベバ事務所関所長より、事務所に現地滞在中に使用可能なスペースを準備しているとの申し出を頂く。これにより駐在員事務所の開設を急ぐ必要がなくなった。
- ・また事務所のあるビルの上階に事務所開設に使用可能な貸しオフィスのスペース有り。諸条件等の調査を関所長に依頼。
- ・駐在員事務所の開設に関する「説明書」を関所長が作成中。後日送付して頂く。

(3) 考察

- ・駐在員事務所の開設準備に当たって、今後貿易省との折衝と情報収集が必須になると思われる。
- ・現地情勢の変化により事務所の開設、長期滞在の居住先の選定にも影響があるので、JETRO、JICA等団体との連絡を密接に行う必要がある。

3.5 実証項目4 工場建設にかかる課題抽出、解決策の構築

(1) 検証方法、活動内容

- ・現地での情報収集。
- ・前回視察したBOLE LEMI工業団地と建設予定のKILLINTO工業団地予定地の視察。
- ・EICに訪問してスリーブ工場建設の提案。

(2) 結果

- ・BOLE LEMI工業団地は各種設備が整っているものの、排水設備が未稼働など不完全である。
- ・KILLINTO工業団地は放牧地、耕作地が広がり12月の時点で全く着工していなかった。

- ・EIC から国内産業保護の名目で外国企業にプラスチックの加工印刷事業は認めない旨の発言あり。12月に二度、1月にはEIC 長官への工場建設許可の提案を行うが、いずれも工場建設は認めないとの方針を伝えられる。

※2月にJETRO 関所長、JICA 栗田氏、UNIDO、日本大使館の皆様のご尽力の結果、EIC 長官よりスリーブ事業を認める内容の発言を頂く。

(3) 考察

- ・工場建設に際して、各地工業団地の賃料、契約条件、工場に必要な設備を入念に確認する必要がある。
- ・エチオピア国内ではスリーブは輸入に依存しており、安定的な供給体制を構築出来れば独占的なシェアの確保、欧州ビジネスへの展開が見込める。

3.6 実証項目5 切花の船便輸送にかかる課題抽出、解決策の構築

(1) 検証方法、活動内容

- ・今期は情報収集などが行えず、具体的な活動は出来なかった。

(2) 結果

- ・船便輸送にかかる課題の抽出、解決策の構築を行えなかった。

(3) 考察

- ・船輸送は現在の航空輸送より日数が長い事により売上の回収に時間がかかる、輸送中の品質維持の問題、コンテナを1社で輸送するには数が足りないなど、解決する課題が多い。
- ・エチオピア国内の農園は船輸送を考えていないのが現状。理解を得る為の協議が必要。

第4章 現地への寄与

- ・今年度はエチオピアで発生した暴動により、スケジュールが大幅に遅れ、計画に基づく活動が行えず目標とした活動を行う事が出来なかった。スリーブ工場の設立に向けて着実に活動を行い、将来的にスリーブの安定的な供給を行うことによりエチオピア国内農園に寄与したい。

第5章 今後の事業展開と課題

5.1 今後の事業展開

(1) 現地における活動

- ・駐在員事務所開設に向けての準備
- ・花の生産本数、スリーブ使用量の把握

- ・エチオピア国内で開催される関連展示会の視察
- ・既存取引先との密接な情報交換，情報共有
- ・エチオピア国内のプラスチック加工印刷事業の調査
- ・エチオピアの環境対策の情報収集
- ・包装材料工場を計画して撤退した過去の外国企業に対する調査

(2) 日本国内での活動

- ・現地販売戦略の構築
- ・工場設立までの計画策定
- ・大使館，切花輸入業者，オランダ花関連企業，エチオピア進出法人への情報収集

5.2 今後の課題

- ・印刷機能を含めたスリーブ工場の建設計画の作成
 現地の需要調査
 現地の拠点設立計画の立案
 エチオピア国内法，規定の調査
- ・明確な販売戦略の構築に必要なエチオピア各地農園の需要調査
 定期的な現地訪問
 EHPEA，EHDA に対する統計データの協力依頼
 各地農園への訪問
- ・安定的な原材料の調達先と物流の確保
 定期的な現地訪問
 調達先発掘の為の情報収集
- ・切花の船輸送の情報収集，取引先農園の船輸送の理解を得る為の活動
 定期的な現地訪問
 取引先農園との情報収集と共有
 取引先農園の船輸送に対する理解と協力の獲得

以上

付属資料 写真等



BOLE LEMI1 工業団地



KILLINTO 工業団地予定地



E 社農園



H 社農園



Y 社農園



JETRO アディスアベバ事務所上階 貸しオフィス